秦支店地区において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成３１年３月８日

熊谷市長　富　岡　　清

記

１．会合の対象とした区域
　秦支店

２．会合の結果を取りまとめた年月日
　平成３１年３月６日

３．今後の地域の中心となる経営体の状況
　○　経営体数

法人	３経営体
個人	２８経営体
集落営農（任意組織）	１組織
合計	３２経営体

　○　農地の集積面積
　74.4ha（区域内の農地面積317.4ha、集積率23.4%）

４．今後の地域農業の在り方
　秦地区は、地元以外の農家が耕作している所もあり、荒れた土地は少ない。
　秦北部の田はばらつきがあり、耕作放棄地は多くはないが所々、点在している。
　秦北西部は足利市など、他の地域からの担い手と５０代の若手で県道西側を耕作している。県道東側は８０代の農業者がおり、まとまれば耕作する人がいる。
　利根川沿いは７０代の農業者で、その後の耕作者の確保が課題である。
　水田は、秦南部と同様に担い手会議を開き、近年中に農地中間管理事業を実施したい。俵瀬の水田は担い手が少ない。
　秦南部の水田は、４区画で基盤整備を実施したい。
　利根川沿いの畑は今のうちに大きなほ場にしておき、借り手がつくようにする。また、農業委員・最適化推進委員により、貸し出したい農地を把握しておく。畑は、使用貸借が多いので、農地中間管理事業を実施し、賃借料を約１，０００円～２，０００円とし、外部からの企業が高額な賃借料で参入する前に実施したい。